

## 安全・安心なまちづくり山梨県民大会

平成18年10月18日(水)、山梨県、山梨県警察、山梨県安全・安心なまちづくり推進会議、(財)山梨県防犯協会、(財)山梨県暴力追放県民会議、山梨県銃器対策推進本部主催により、「安全・安心なまちづくり山梨県民大会～地域安全・暴力追放～」を開催しました。知事や警察本部長のほか、自主防犯組織や事業者、防犯协会会员など約500名が参加しました。防犯、暴力追放に功績があった個人、団体の表彰や、自主防犯組織「富士吉田ふれあい隊」代表遠藤伸子氏、「フタバ・クライム・プリベンション・パトロール」代表小田切千尋氏により大会宣言が読み上げられ、満場一致で採択されました。また、中学生防犯弁論大会で優勝した山中湖中学校3年伊藤裕実香さんの弁論や、(財)山梨県暴力追放県民会議暴力団根絶推進員の中村善守氏による暴力追放講演、子どもの危険回避研究所所長である横矢真理氏を招いての特別講演など、大変盛り上がった大会となりました。



## やまなし安全・安心なまちづくりアカデミー



県民一体となった犯罪の起こりにくいまちづくりを進める活動の一環として、平成18年9月2・9・16日の3日間、県立青少年センターにおいて、防犯リーダーを養成するための「やまなし安全・安心なまちづくりアカデミー」を開講しました。

県内から延べ300人近くの方が参加し、県、警察、教育委員会、市町村の取組の紹介や事業者、自主防犯組織代表などによる事例発表の講義を受けました。県内の防犯に携わっている方々が一堂に会した場であり、意見交換や情報交換が活発に行われました。

## 街頭キャンペーン

「安全・安心なまちづくりの日」であり、また全国地域安全運動の初日でもある平成18年10月11日の早朝、甲府駅前において、県民のみなさまに安全・安心なまちづくりを知っていただくとともに、一人ひとりの自主防犯意識の高揚を図るため、街頭キャンペーンを行いました。

県、警察、関係団体のほか、甲府市内で活躍する自主防犯組織の方々にもご協力をいただき、広報啓発活動を行いました。

また、夕方には、昭和町内の大型ショッピングセンターにおいて、南甲府警察署員や甲府昭和高校の生徒とともに、安全・安心なまちづくりを呼びかけました。



## 県民の日記念行事参加



11月20日の県民の日に先立ち、甲府市小瀬スポーツ公園において、平成18年11月11・12日の両日、記念行事が行われました。

「安全・安心なまちづくりブース」を開設し、防犯クイズや防犯ガラス割り体験、また、防犯グッズや地域安全マップの紹介などを行いました。参加者は、初めてのガラス割り体験に興奮しながら、防犯ガラスの威力に驚いていました。

おしらせ

県では、防犯のための自主的な活動や、犯罪防止に配慮した生活環境の整備などの事業を対象に、事業費の2分の1までを補助する地域活性化促進事業費補助金を平成19年度も募集する予定です。詳しくは、安全・安心まちづくり担当(055-223-1547)までお問い合わせください。

# 安全・安心まちづくり通信

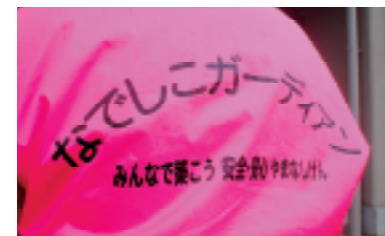


## \* 私たちの活動を紹介します \*

### \* なでしこガーディアン

甲府市

「なでしこさん、こんにちは!」。甲府市立舞鶴小学校には、黄色い帽子の元気な子どもたちと、なでしこ色のジャンパーが眩しい「なでしこガーディアン」たちのあたたかい笑顔があった。平成16年9月、地元で急増する犯罪を何とか減らし、安心して暮らせるまちづくりに力になると、地域活動を通じて知り合った仲間たちが団結し、立ち上がった。なでしこは「甲府市の花」。ガーディアンは「守護者」。地元の女性たちの声が、あつという間に形となった。



12名で出発し、現在会員は21名。主婦もいれば商売をしている人もいる。若い人もいれば、高齢者もいる。「時間が空いたときに出てるのではないんです。みんな時間を空けてくれるんですよ」。だからと言って、自分の生活を犠牲にしているわけではない。「出られない人の分は、みんなでカバーしています」。芦沢代表の言葉に、メンバーたちの強い結束力が現れていた。

平成17年4月、春日、相生、穴切小学校が統合され、舞鶴小学校が誕生した。児童が増えたことにより、声かけ事件や不審者の出没も増加した。自分たちで地域の子どもたちを守りたい。そんな思いがふくらみ、当初、地域全般の防犯パトロールを中心に行っていたが、今は登下校時の児童の見守り活動に重点を置いている。メンバーのほとんどが、自分の身内と小学校には何の関係もない。「この地域が好きなんです」。メンバーの言葉に、みんながうなずいた。昨秋からは、地域の清掃活動も始めた。

突然、メンバーの一人が携帯電話の画面を見せてくれた。学校からのメールだ。「〇月〇日午後〇時ころ、〇〇付近で不審者。お人形あげるからついておいでと誘う。男性の特徴は〇〇。注意をお願いします。」などと事細かく書かれていた。事件が発生し、児童が先生に通報した直後に送信されてきたという。まさに、学校と一体となった見守り活動である。以前、ゲームセンターで暗くなくても遊んでいる子どもたちに声をかけると、「営業妨害だ!」と店から罵られたこともあったが、自分たちの地域、そして子どもたちを愛する気持ちは変わらなかった。今では、ピンク色のジャンパー姿をみんなが応援してくれる。下校時には1、2年生を中心に自宅まで送り届けているが、一緒に歩いてくれる保護者が日に日に増えてきた。校長先生をはじめ、学校、地域みんなが活動を理解してくれている。「学校と地域をつなげる橋渡しが、私たちの役目です」。



昨年は、警察庁から「地域安全安心ステーションモデル地区」に指定され、活動にも熱が入る。「息の長い活動をしていくことが何よりも大事」。地域、警察、学校が一体となり、みんなが活動しやすい環境づくりに心がけながら、この地域を犯罪から守っている。「今では、子どもたちからどんどん声をかけてきますよ。(手と手をパンと叩いてあいさつする)ハイタッチが楽しくって」と、メンバーが笑顔で教えてくれた。ピンクのジャンパーは、今日もあちこちで輝いている。甲府市の中心街に、なでしこの花は一年中咲いている。